

## ペルー 大手育種会社が違法栽培のブドウを撤去

[The Packer 2024年7月19日](#)

生食用ブドウやサクランボの世界最大の育種会社の1つであるブルームフレッシュインターナショナル社は、何カ月にもわたる調査と法的措置の後、ペルーの生産者により違法に植えられ、栽培されていたスイートグローブ、ジャックスサルト、スイートセレブレーション、アリソンの各品種合計110ヘクタールの撤去を実施した。これは、ペルーにおける生食用ブドウの権利侵害事件の歴史の中で最大の違法ブドウの撤去であり、また、侵害した生産者に対する多額の罰金を伴うものであると、同社はニュースリリースで伝えた。

この措置は、次のシーズンに同社の品種を違法に栽培することを計画している可能性のある生産者への警告である。同社は、権利関係の有る品種や商標を違法に使用する種苗業者や生産者に対して、引き続き最も強力な法的手段で対処するとしている。ペルー南部で発見されたブドウの違法栽培者は、110ヘクタールに植えられたブドウをすべて自費で伐根・撤去することを余儀なくされ、将来の収入源に甚大な影響を受けた。また、この生産者は権利侵害に対して高額な罰金を支払わなければならない。

ブルームフレッシュ社は、侵害者を探し出して権利を確実に行使するため、市場を監視している。同社は、潜在的な侵害を察知した場合、国内外の法務チームが行動する準備ができているとしている。同社のジョセップ・エステリアルテCEOは、「本日、我々は、弊社の品種を違法に植えることを検討している業者と生産者に明確なメッセージを送っている」として、「弊社の知的財産の侵害は容認されず、これを逃れることができると考えている者に対して、弊社は総力を挙げて対処する。今回のケースは、違法な生産者が直面する重大な経済的影響を示している」と述べた。

同氏はさらに、「世界中の合法的な生産者は、弊社が長期的なビジネスの構築を支援するものと信頼している。弊社は、そうした人々の利益を守るため、弊社の品種を違法に植えようとする者の責任を問わなければならない。また、弊社は世界品種育成者連盟(The Global Breeders Alliance)の創設メンバーでもある。この連盟は、侵害に対して市場を継続的にスクリーニングする調査員の世界的ネットワークを持っている。弊社は、違法と思われる果実や植物のDNA検査を定期的実施するとともに、世界中の主要な小売業者や流通業者と緊密に連携して、我々の知的財産の侵害を特定している」と述べた。

執筆者: ジル・ダットン (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

## スペイン 若年者は生鮮果実の消費が少なく高齢者は多い

[FreshPlaza 2024年7月19日](#)

独立した若者と子どものいない若い夫婦の世帯は、その人口に占める割合と比較して、2023年の生鮮果実の消費量が最も少なかった(それぞれ全体の2%及び3.8%)。対照的に、退職者と、同居の子のいない中高年夫婦が最も多くの果実を食べ、昨年スペインで消費された総量の33.5%及び16%を占めた。

農水産食品省の2023年食料消費レポートによると、同年の生鮮果実の消費量は、前年比2.7%減の78.5kg/人であった。人口の5.6%を占める独立した若者の世帯は、全世界帯が購入した367万2千トンの果実の2.08%しか消費していない。果実を最も食べない2番目のグループは、子供のいない若い夫婦で、人口の7.4%を占めているが、2023年の総消費量の3.8%しか消費していない。

退職者、同居の子のいない中高年夫婦及び年長の子がいる夫婦の世帯は、同年に最も多くの生鮮果実を消費した。これら3類型のすべてで、消費シェアは人口統計学的な割合を超えている。退職者世帯は果実消費量の33.5%、同居の子のいない中高年夫婦世帯は16%、年長の子がいる夫婦世帯は12%を占めた。

世帯内の主たる購入者が50歳以上の世帯では生鮮果実の購入量が最も多く、全購入量の39.4%を占め、人口統計上の比率(29%)を上回った。主たる購入者が50歳以上の世帯、特に65歳以上の世帯では、一人当たりの生鮮果実消費量が最も多く、年間平均146.86kgであった。一方、主たる購入者が35歳未満の世帯では、1人当たり年間34.53kgの果実しか消費しておらず、全体平均の78.51kgを大きく下回った。

FEPEX(青果物生産輸出団体連合会)が分析したスペインの2023年食料消費レポートの複数のデータは、生鮮果実の家庭消費はまだ大人や高齢者のものなのかとの疑問を抱かせる人口統計学的消費行動を示した。

出典: [www.fepex.es](http://www.fepex.es)